

自己点検・自己評価報告書(令和4年度)

学校法人 瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校 臨床工学科
令和5年4月1日作成

1. 学校の教育目標

最先端医療分野を担うチーム医療のスペシャリストとして、臨床現場で必要となる基礎医療知識及び工学技術を持ち、かつコミュニケーション能力の高い優れた臨床工学技士を育成する。

2. 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 工学の基礎となる基礎理数系科目の理解度を向上させる。医療系分野においても課題を与えての問題解決能力の向上を狙う。
- (2) 臨床工学技士国家試験および第2種ME検定試験の合格率の向上を狙うため夏休みの補講授業および個人対応などを積極的に取り入れる。
- (3) 医療に携わる者として、また一社会人として必要となるマナーの習得を強化する。
- (4) 有識者や医療施設等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技能の修得を目指し、授業内容を充実させるとともに臨床現場で活躍する卒業生の特別講義を実施する。
- (5) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (6) 教員の資質・指導力を向上させるために、オンラインによる学会や勉強会などへの参加の強化。
- (7) 学生数の減少に伴い、資料請求者への連絡、ガイダンスへの積極的な参加および、学校情報のSNS発信や動画発信を行う。
- (8) 令和4年度においても将来医療人として働く上での感染症対策として学生の体温チェックや手指消毒など徹底して行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向け て方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。
- ・保護者に入学式の案内状を送付し、式への列席を促した。令和4年度は感染症対策を実施した上で入学式を実施した。保護者懇談会においても感染症対策を行った上で実施した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・令和4年度も。病院で働く臨床工学技士との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の見直し、教職員の質の向上及び情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直す必要がある。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内（パンフレット）」、「募集要項」についてもホームページで閲覧できるようにした。
- ・証明書の発行や卒業台帳の作成、卒業証書の発行などの業務のデータ化が整備され効率化を図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する臨床工学技士養成施設として、法に基づきカリキュラムを編成し、適正に運営されている。
- ・臨床工学技士資格取得は、カリキュラムの上で明確に目標として定められており、取得をサポートできる教育内容になっている。また社団法人日本生体医工学会実施の第2種ME技術実力検定についても推奨しており、夏休みに対策授業を行い2年生での合格者が5名でた。
- ・指定カリキュラムが大半を占めるため難しい面はあるが、毎年、教育課程編成委員会の意見に基づき可能な範囲内でカリキュラムの工夫・改善への取り組みを行ってきた。とくに平成28年度からは、卒業生による特別講義の実施や、クリニックでの模擬実習（OSCE実習）などを新たにとり入れた。各学年の年間予定にもとづき実施する。
- ・法令により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識について十分なレベルの教職員を確保できている。
- ・各臨床工学技士会、循環器関連、血液浄化関連の学会などにも毎年学生にも参加させていたが、令和4年度は新型コロナウイルスの影響で学会などが中止となったため参加していない。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	
資格取得率の向上が図られているか	4 3 ② 1	
退学率の低減が図られているか	4 3 2 ①	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- 臨床工学技士国家試験対策、面接指導等、就職に向けての指導を行っているが、とくに国家試験の合格率が一時期に比べると下がってきている。資格取得に向けての意欲の低下がみられる。令和4年度は3年生に対してグループ分け（2名～3名）を行い、グループに複数教員が日替わりで、国家試験対応を行った。
- 令和4年度では1年次で、就学・資格取得への意欲減退の理由から退学者が3名、2年次で進路変更を理由に1名、3年次でも進路変更を理由に2名あった。学生、保護者との連絡の充実、細かな目標設定、卒業生による特別講義の実施など将来像の再確認等を行い、退学者の低減を図る必要がある。
- 令和4年度の臨床工学技士国家試験の結果は84.2%となり、ほぼ全国平均と同等であった。昨年と比較して合格率は若干であるが上昇した。残念ながら3名の不合格者がでており、あくまでも全員合格を目指す。不合格者については聴講生として、特別な講義を行い基礎からの勉強を徹底して行っている。まずは第2種ME検定試験の合格をめざす。また、臨床工学専攻科の授業にも参加してもらい、来年度の国家試験合格をめざす。
- 現在多種多様な学生さんが入学しており担任一人だけでは対応するのが困難な状況になりつつある。他学年の担任も含めて教職員全体での対応を行っている。
- 一部の卒業生については、学校との密接な関係を持っている。医療現場で活躍しており、学生が将来像を描く際の良い見本となり、また、学生の就職にもつながっている。平成27年には臨床工学科の同窓会組織を発足し、学校側と同窓会側で緊密に連携を行い学生にとって有益な情報の提供や、特別講義の実施や病院内での模擬実習を行っている。
- 臨床実習時に患者さん対応に困らないように、2年生を対象として12月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を行った。令和4年度も卒業生の方に参加していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識と技術を習得する機会を得た。
- 臨床経験豊富な臨床工学技士の教員を令和4年度から招いたことで、様々なシチュエーションでの臨床工学に対する学内実習を行っていただいた。臨床実習前に行った事で、臨床実習で必要な事前知識を吸収することができた。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1	
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1	
卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任と副担任が主に対応し、各学生に対する情報共有をしている。また担任以外でも学生の情報を共有し、対応できるよう心掛けている。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学級担任と相談の上で進路を決定する仕組みになっており、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、学校側と保護者との連携をはかり、問題を解決するようにしている。また状況によっては懇談や家庭訪問を行うなど適切に対応している。
- ・夜間部に「臨床工学専攻科」を設置しており、大学とのダブルスクール、また看護師、臨床検査技師、診療放射線技師等で就業している社会人もキャリアアップを目指すことができる体制となっている。
- ・令和4年度は社会人出身学生に対応するために、専門実践教育訓練給付金の申請を臨床工学科に行った。臨床工学専攻科についても一般教育訓練給付金からの移行申請を行い給付金の対象となった。また、高等教育修学支援の対象学科として臨床工学科と臨床工学専攻科の申請を行い対象学科となった。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・実習時等の事故防止の教育体制は整備されている。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・令和4年度も新型コロナウイルスの影響もあり、十分な高校訪問を実施することができなかった。一人でも多く本校の事を知ってもらうのが目的である。令和5年度の入学者は昨年度に比べて減少した。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある
- ・令和4年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・オンラインによるオープンキャンパスを実施したが、申し込みは少なかった
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・令和4年度も昨年度に引き続き、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行う。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れ等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・日本メディカル福祉専門学校として、医療法人が主催する地域住民への医学公開講座に、教室を無料提供している。
- ・ボランティア活動や大阪府臨床工学技士会が主催する献血活動に臨床工学科1年生が3名参加した。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・令和4年度も留学生の入学志願者が0名であった。これに対し、令和5年度は日本語学科と連携し学校見学会を実施した。
- ・日本語が上達していない学生に対しては、とにかく話かけることを念頭におき、日本語を使う機会を増やしていく

4. 昨年の学校関係者評価委員会の委員の方のご意見から

・委員の方のご意見から実施できたこと

(1) コミュニケーション能力について (増南委員・檜村委員・北野委員)

各学年により異なるが、活発にコミュニケーションをとる学年とそうでない学年に分かれる。朝に教員が玄関に立って挨拶を行うことにより、次第にコミュニケーションをとる学生が増加した。3年生での臨床工学に関する学内実習を増やしたことで、学生同士あるいは教員と学生間でコミュニケーションをとる機会が増加した。また学生とはGmailやClassroomを通じて連絡をおこなっており、各担任は教室に入る回数を増やして学生と直接コミュニケーションをとるようにしている。

(2) 専門用語について(北野委員)

授業でも行ってはいるが、専門用語についても医療分野では各業務ごとに違った略語が飛び交う世界であるので、略語試験などを行い3年生での臨床実習に向けて一つでも多くの略語を習得できるようにしている。

(3) 保護者との連携(北野委員)

欠席が多い学生や成績が振るわない学生の保護者とは電話などで連絡をとり、現状報告を行っている。保護者と学校とで連絡を密にとれる場合は連携を行い学生の指導を行っている。

(4) 定期試験のあり方について (檜村委員)

一部の教科については、定期試験の代わりに小テストやグループに分かれての課題レポートを行う形にしてから、学生自身で自ら調査をしたり、グループで話し合っただけで答えを導きだしたり、教員に質問したりという部分での自主性が付いた。

(5) 教員の評価について (檜村委員)

6月と11月の年2回、学科で大きな項目を設定し、各教員に自己評価を行ってもらっている。各学科の責任者がその自己評価について、採点し評価を行っている。

・委員の方のご意見から実施できなかったこと

(1) 他の専門職の配置(増南委員)

心理カウンセラーなどの他の専門職の方の配置は実際には行えていない。

(2) 他校との差別化 (定員の検討・広報の充実) (檜村委員)

臨床工学技士の養成校も大学が増加しており、大学と専門学校との違いをもっと明確にしていく必要がある。また専門学校から大学4年次編入も可能であることをもっと広く知ってもらい必要もある。

(3) 退学の防止に関する取り組みについて(北野委員)

令和4年度は退学者が6名でた、退学者が出ないように休みの多い学生などに注意して本人との連絡や面談、および保護者との連絡をさらにとるようにしていく。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育理念・目標

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。

(2) 教育活動

・令和4年度からは臨床工学技士として臨床経験豊富な教員を招き、3年生など臨床実習前に必要な内容の講義や多くの医療機器や医療機器点検器具を取り入れ、様々なシチュエーションでの学内実習を行っていただいている。実習前に必要な事前知識の習得に役立つ内容になっている。

・国家試験対策としては、講義だけではなく学生を少人数のグループに分け複数の教員を配置し、個人対応の対策を行った。成績が振るわなかった学生も理解度が増し国家試験合格につながった学生も出た。

・臨床実習時に患者さん対応に困らないように、2年生を対象として12月には卒業生がいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を今年度も行った。令和4年度も卒業生の方に参加、指導していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識を習得する機会を得た。

・令和5年度より、臨床現場で活躍する卒業生による特別講義を再開、実施しており、新型コロナウイルスが流行する以前の環境に戻りつつある。学会参加についても令和5年度より行っている。

・令和5年度からではあるが、1年生については、午後の授業の空いた時間を利用して学校の周辺の散策を担当とクラス全員参加で行い、自然にお互いにコミュニケーションをとる機会を設けた。

(3) 学修成果

・令和4年度は2年生に対して早い段階から第2種ME検定試験に対する重要性について話をし、対策講義を夏休み中に行った。2年生の段階ではあまり合格者が出ていなかったが、今年度は5名の合格者がでた。

・臨床工学技士の国家試験に関しては3名の不合格者がでてしまい、全国平均を少し下回った。このことを反省し、早い段階からの意識づけと国試対策授業を行っている。

・退学者についても3学年で6名出たところから日頃からの声かけ、挨拶、学生の少しの変化での教員間の情報の共有、面談の実施など昨年度より強化している。

(4) 学生支援

・令和4年度は社会人出身の学生について専門実践教育訓練給付金の対象に臨床工学科だけであったが、一般教育訓練給付金からの移行申請を行い臨床工学専攻科も対象となった。また高等教育修学支援の対象学科として臨床工学科と臨床工学専攻科の申請を行い対象学科となった。

・令和5年度より臨床工学科を対象として「特待生制度」を導入する。成績優秀な学生、意識の高い学生の獲得のため本制度を設定した。

(5) 教育環境

臨床工学科の新カリキュラムに向けての医療機器の投入を考えている。新しく臨床経験豊富な教員を招いた際に病院で使用していた医療機器や医療点検機器を多数導入していただいた。それに伴い学内での実習については様々なシチュエーションでの実習が可能になった。

(6) 学生の受け入れ募集

学校案内、ホームページ、SNS等において、学校での授業内容、資格の内容、行事などを示しており適宜見直し・改善しているが、よりたくさんの方々にもみていただくようにしなければならない

(7) 社旗貢献。地域貢献

臨床工学科1年の3名が大阪府臨床工学技士会が主催した献血ボランティアに参加し、大阪の梅田にてたくさんの方々に献血の呼びかけを行いました。

(8) 国際交流

令和4年度に関しても留学生の入学者がゼロであったため、令和5年度は日本語学科で連携して学校見学会を実施した。9名の学生さんが参加していただき、学校説明、設備見学などしてもらいました。